

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピネス国際キッズサポート(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	R7年 10月 6日 ~ R7年 10月 10日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	R7年 10月 6日 ~ R7年 10月 10日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 11月 7日		

○分析結果

公表日

令和8年1月16日

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異文化での保育、教育に対する不安や困難に対するサポート・行政や医療機関、相談支援事業所との連絡調整サポート	行政や子ども園入園のための通訳連絡、書類の記入等、必要に応じて行っている。	ご家庭が、自立して直接のやりとりができることが望ましいため、自立サポートとなるよう取り組みたい。
2	兄弟姉妹の発達課題と照らし合わせてのサポート、兄弟姉妹関係の中でのサポート	成長につれて、兄弟姉妹間のデリケートな問題が発生してくるため、利用児や保護者にも、アドバイスやサポートを行っている。	さらに、兄弟姉妹間の関係を考えながら、デリケートな部分を感知でき支援できるよう取り組む。
3	異年齢の交流により、よりコミュニケーションのトレーニングとなり、良い効果を生み出している。	大人だけが接するのではなく、自然に生み出される異年齢同士の交流を見守っている。危険回避や調整の必要には敏感に対応している。	限られた指導員だけではなく、すべての指導員がコミュニケーションのサポートに敏感な判断ができるようになるよう取り組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	言葉の壁により、難しい研修の言語の理解に困難であり、内容が簡潔化してしまう。また、業務においても、正確に伝わっていかない場合がある。	2か国言語のわかる職員が限られており、語彙が少ないこともあり、正確な伝達ができない。	研修資料やコミュニケーションに、積極的にAIの翻訳機能を使用するなどして、工夫していく。
2	ブラジル系、フィリピン系と、食文化に差があり、そこに偏食が加わると、おやつの選択に困っている。	気分やわがままで食べられないのか、障がいの特質で食べられないのかを混同してしまう可能性がある。	食べられる種類のおやつを増やすと共に、選択する遊び部分も入れて良いのではないか。「おやつは楽しいもの」という体験に焦点をあてて良いのではないか。
3	工作・運動等、年齢や好みのばらつきがあり、一斉に同じことをすることが困難。	年齢差・利用時間差・好みの差	同じ素材・同じ場所で、個々の年齢、好みに寄り添ったものを提供していく。乳幼児に関しては、その発達段階に合わせる。